

酒屋明と新作合唱 「酒造り唄」との出会い

越後の酒 屋唄が 誰でも歌える合唱曲となって よみがえる

元杜氏の語り 自然の音色に 風の音 木々のざわめき 合唱の声 蔵人の仕事唄が

絶妙に重なり合って

作曲は 日本の伝統音楽の響きを知り尽くした作曲家 菅野由弘

唄半給金の世界が 朝日酒造のエントランスに響き渡ります

## 平成22年2月13日(土)・14日

開場:13時半 開演:14時 会場:朝日酒造エントランスホール

お問合せ:0258-92-3181(朝日酒造文化事業部)

- 嶋悌司
- 茂手木潔子

入場券 1,000円

## 癒 の 声 とリズム

## 酒屋 魅 力

# 唄」の 5

酒に合うかどうかはわからないが、酒造 いた。ベートーヴェンの曲が日本の 上げられ、その時の酒蔵ではべ という話がテレビ番組で取り トーヴェンをお酒に聴かせて 聞かせると酒が良く発酵する ずいぶん前のこと、音楽を

国として欧米人に知られている。 作業をしていたことは有名だ。そして、日本は多くの仕事唄を持っていた りの伝統的な工程で、蔵人たちが唄を歌いながら

この素晴らしい日本の仕事唄を何とか残す方法はないか。 しての体験のある蔵人は年を重ね、すでに七十代半ばを過ぎた。 唄が人の心を癒す唄なのだと確信した。記録ビデオやCDを制作したが、作業唄と 魅力的だった。そして何時間聴き続けても疲れない不思議な唄だった。その時、この 聴いたら忘れられないほど、酒屋唄には人の心を動かす力があり、歌う蔵人の姿は 具だった。さらに、歌うことで家族と離れた出稼ぎの辛さを癒すこともできた。一度 可欠な存在で、撹拌時間を計り櫂棒の動きや米をとぐ足の動きを揃えるための道 を教えられた。時計のない時代、この唄は「唄半給金」と呼ばれるほど酒造作業に不 **九九○年代、私は新潟県の元醸造試験場長の嶋悌司氏から酒屋唄の素晴らしさ** 

### 菅野 由弘(かんの・よしひろ) 作曲家

げ、「久保田」を世に出した川上杜氏が朗読を引き受けてくださった。

多様な声の音楽に精通している山本義人氏。そして、酒屋唄に興味を持った方々が 由弘さんが、私の考えに賛同し合唱曲を書いてくださることになった。合唱指導は、 った。そして国立劇場などで、日本の伝統音楽を多く作品化している作曲家の菅野 緒を残すような作品では酒屋唄にはならない。どうしても酒屋唄の本質を残したか

いすることになった。一般的な合唱曲のように、本来の唄の歌詞に新しい曲をつけ、情

昨年初め朝日酒造で酒屋唄を合唱曲にする話が持ち上がり、私が企画をお手伝

合唱団として朝日酒造に集合した。嶋氏は、出稼ぎする蔵人の想いを文章に作り上

東京芸術大学大学院作曲科修了。79年「弦楽四重奏曲」がモナコ・プランス・ピエール作曲賞。94年、電子音楽「時の鏡I—風の 地平」がユネスコ主催、IMC推薦作品、2002年、ラジオドラマ「アウラ」でイタリア放送協会賞受賞。主要作品は、NHK交響 楽団委嘱の「崩壊の神話」、国立劇場委嘱の雅楽、聲明、古代楽器のための「西行―光の道」(春秋社刊)、聲明とパルサー波 によるコンピュータ音楽「虚空星響」(DENON)、NHK委嘱の、オーケストラと雅楽、能管、太棹のための「蜘蛛」、ヴァイオリ ン、尺八、筝、笙、コンピュータと映像のための「風の都市」、「北斗西流」雅楽、電子音響、ロボットの舞など。現在、ピアニスト小 川典子とミューザ川崎シンフォニーホールの共同委嘱で「ピアノの粒子」三部作が進行中。他にNHK大河ドラマ「炎立つ」、 NHKスペシャル「フィレンツェ・ルネサンス」などの音楽。現在早稲田大学教授。





ることを、きっと体験していただけるだろうと思っている。

100九年十二月

茂手木潔子(上越教育大学 名誉教授

おかげで、前例のないこの企画が実現する。酒屋唄が人の心にやさしい癒しの唄であ

朝日酒造の酒屋唄継承への強い熱意と、そこに集合した素晴らしい方々の尽力の

そ、酒屋唄のリズムになる。合唱団の方々は、蔵人の本物の唄を聞いてから自ら体を

葉の内容の伝達が重要で、メロディーは副次的な存在だ。動作を伴って歌うからこ

仕事のための唄は、第一に身体の動き、次に遠くまで届く張りのある声、そして言

動かして仕事の拍節感を体験してから合唱に臨んだ

### 山本 義人(やまもと・ぎじん)

二期会会員 埼玉オペラ協会理事長 「ぎじん会」主催 混声合唱団「ラ・ルシオ」をはじめとする8団体の常任指揮者・音楽 監督などを務める。



### プログラム

1. 嶋悌司作

「酒を造る里のものがたり」 朗読 川上孝一(元朝日酒造杜氏)

2. 蔵人の酒屋唄

流し唄 桶洗い唄 数番唄 米洗い唄 もとすり唄 二番櫂 三コロ 切り火

3. 合唱

もとすり唄 数番唄 桶洗い唄 米とぎ唄(野積地域) =70 仕込み唄(野積地域)

木版、魚版など、様々な日本の打楽器と、 コンピュータによる風音、水音が声の音楽を支えます。

■監修 嶋悌司(しま・ていじ)

■朗読

川上孝一(かわかみ・こういち)

■作曲·指揮

■合唱指導

菅野由弘(かんの・よしひろ)

山本義人(やまもと・ぎじん)

■酒屋唄 朝日酒蔵の杜氏たち

越後酒屋唄を歌う会 ■合唱

茂手木潔子(もてぎ・きよこ) ■企画・構成

■舞台協力 高木どうみょう